

・「占冠宣言」と

環境対策推進の窓口



山本敬介議員

1 東日本大震災被災地と防災

問 震災から1年9カ月が経過しました。10月に被災地へ行かれて、村長は何を感じ、今後どのような支援活動を考えているのか伺います。

中村村長 生活していく上で一番重要なコミュニティが元の形に戻るには何十年もかかるのではないかと感じました。村の支援は避難者の受入れなどを継続していきたいと考えています。

問 この冬、登別市、猿払村などで防風雪による停電が相次いでいますが、村の冬期停電への備えについて伺います。

中村村長 現在自家発電は、占冠中学校、トマムコミュニティセンター、消防庁舎の3カ

所、ポータブル式石油ストーブは占冠地域交流館、双珠別住民センター、川添住民センター、美國住民センターに設置しています。

毛布は消防支署に百枚、トマム支所に50枚あります。

問 他地域の停電事故を見ても、自家発電の燃料や避難所の灯油量が8時間程度では足りないと思います。伺います。

中村村長 ご指摘の自家発電燃料タンクは増設していきたいと考えています。

2 防犯カメラの設置状況は

問 防犯カメラは、犯罪の抑止と、犯罪が起きた際の解決の手がかりに重要と認識しています。

現在の村内における防犯カメラ設置の現状を伺います。

中村村長 現在金融機関の窓口2カ所のみに設置されています。

問 すでに自治体向けの防犯システムが商品化し、一般化しています。

プライバシーの保護を守った上で、例えば、中央の交差点を通る車が把握できれば重大事件の際には大きな糸口になると思います。

防犯会議の中で検討する考えはありませんか。

中村村長 現在設置は考えていませんが、今後、警察や防犯協会、関係機関と議論していきます。

3 「占冠宣言」と環境対策推進の窓口

問 平成7年の国際環境観光会議で公式に採択された「占冠宣言」にある、環境に優しいまちづくりを進めるための情報収集、ネットワークづくり、アспен環境研究センターの研修プログラムを導入等について伺います。

中村村長 占冠宣言は未来を見据えた画期的な内容でした。しかし、リゾートの破綻や、行政の財政危機の影響で、宣言内容の多くを実施することができませんでした。

今後はアспен環境研究センターの研修プログラムの導入等

について、調査研究を進めていくべきと考えています。

問 環境対策全体を進めるための行政の窓口を伺います。

中村村長 窓口は現在設置しておりませんが、将来的には必要だと考えています。

4 NPO法人の住民税均等割減免条例

問 今年3月の議会でも伺いました、収益事業を行っていないNPO法人に対する、減免措置条例について、再度伺います。

中村村長 税条例の改正を3月議会で提案したいと考えています。

5 環境教育の体系化を

問 学校における環境教育は、北海道大学との連携協定締結等もあり、小学校1年から中学校3年までをしつかり体系化していく時期ではないでしょうか。

藤本教育長 各学校においては、環境教育の全体計画を策定し各教科、そして道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動等を通して横断的に実施しています。

6 占冠神楽の保護策は

問 11月にトマムリゾートで行われた新能講演の際、占冠神楽を見て改めて感動しました。

ただ、この二頭大蛇は、現在占冠村では伝承者の減少からできないということでした。

村の伝統芸能に保護策を講じて守っていく考えがあるか、伺います。

藤本教育長 占冠村神楽保存会は30年が経過していますが、団員の募集が難しいという現状があります。

今後も伝統芸能を見る機会を作りながら、参加していただけるよう呼びかけていかなければならないと考えています。



本家錦城神楽団と共演する占冠神楽